

Dell Command | Intel vPro Out of Band

バージョン 3.3

ユーザーズガイド



メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: 概要	5
本リリースの新機能.....	5
対応オペレーティング システム.....	5
対応クライアント オペレーティング システム.....	5
AMT で管理されたクライアント システムの対応オペレーティング システム.....	6
対応サーバー オペレーティング システム.....	6
章 2: Dell Command Intel vPro Out of Band のインストール	7
Dell Command Intel vPro Out of Band のインストールの前提条件.....	7
Dell Command Intel vPro Out of Band のインストール.....	7
インストーラーの修復オプションの使用法.....	8
Dell Command Intel vPro Out of Band のアップグレード.....	8
Dell Command Intel vPro Out of Band のアンインストール.....	8
章 3: Dell Command Intel vPro Out of Band の使用	9
Dell Command Intel vPro Out of Band の起動.....	9
Dell Command Intel vPro Out of Band を使用する前に.....	9
WinRM の設定.....	9
設定.....	10
アカウントのセットアップ.....	10
KACE アカウントのセットアップ.....	10
インジケーション.....	11
KVM.....	11
タスク キュー.....	11
ログ.....	12
USB プロビジョニング.....	12
USB デバイスを使用したプロビジョニング.....	12
クライアントの選択.....	13
インジケーション.....	13
推奨フィルターとオプション フィルター.....	14
ポリシー.....	14
サブスクリプションの設定.....	15
サブスクリプションのステータス.....	17
イベント.....	18
クライアントの設定.....	19
電源プロファイルの設定.....	19
起動順序の設定.....	20
BIOS の設定.....	20
BIOS パスワードの設定.....	21
操作.....	22
KVM セッションの確立.....	22
電源管理の実行.....	22
クライアント データの消去.....	23
レポートの生成.....	24

レポートのスケジュール.....	25
レポートの取得.....	25
タスク キュー.....	26

概要

Microsoft Windows Server 2011/2012/2012 R2/2016/2019 Essentials 用の **Dell Command | Intel vPro Out of Band** は、使いやすいアウトオブバンド管理ソリューションのアプリケーションです。このアプリケーションは、システムの電源状態に関係なくクライアントシステムをリモートで管理することができます。

Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用すると、次のタスクを実行できます。

- **USB プロビジョニング**：Intel AMT 対応クライアントシステムをプロビジョニングしてセットアップします
- **クライアントの選択**：新たにプロビジョニングしたクライアントシステムを検出および追加します
- **インジケーション**：Distributed Management Task Force (DMTF) フィルターを使用してクライアントをリモートから監視、診断、管理します
- **クライアントの設定**：クライアントシステムの次の設定を指定します
 - **電源プロファイル**：優先する電源ポリシーを設定して適用します
 - **起動順序**：起動順序を設定または変更します
 - **BIOS 設定**：BIOS を設定および更新します
 - **パスワード**：管理者およびシステムパスワードをクリア、セット、設定します
- **操作**：次のリモート操作を実行します
 - **KVM 接続**：KVM セッションをセットアップおよび実行します
 - **電源管理**：電源設定をリモートから管理します
 - **クライアントデータの消去**：クライアントのハードドライブをリモートからフォーマットします
- **レポート**：アウトオブバンド型管理、プロビジョニング済みのシステム、バッテリーの状態、ハードウェアインベントリーのレポートを生成します。
- **タスクキュー**：タスクの進行状況と詳細を監視します。

トピック：

- ・ [本リリースの新機能](#)
- ・ [対応オペレーティングシステム](#)

本リリースの新機能

- [パスワード] 機能の [長さ] オプションが [設定] に変わります。[設定] オプションを使用して、強力なパスワード機能を有効または無効にしたり、個別のパスワードルールをカスタマイズしたりすることができます。

対応オペレーティングシステム

次の一覧で、このアプリケーションの対応オペレーティングシステムのタイプと具体的なバージョンを示します。

対応クライアントオペレーティングシステム

- Windows 10 32 ビット
- Windows 10 64 ビット
- Windows 10 32 ビット Professional
- Windows 10 64 ビット Professional
- Windows 10 32 ビット Enterprise
- Windows 10 64 ビット Enterprise
- Windows 8.1 32 ビット
- Windows 8.1 64 ビット
- Windows 8.1 32 ビット Professional

- Windows 8.1 64 ビット Professional
- Windows 8.1 32 ビット Enterprise
- Windows 8.1 64 ビット Enterprise
- Windows 8 32 ビット
- Windows 8 64 ビット
- Windows 8 32 ビット Professional
- Windows 8 64 ビット Professional
- Windows 7 32 ビット Professional
- Windows 7 64 ビット Professional
- Windows 7 32 ビット Ultimate
- Windows 7 64 ビット Ultimate

AMT で管理されたクライアント システムの対応オペレーティング システム

- Windows 10
- Windows 8.x
- Windows 7

対応サーバー オペレーティング システム

- Windows Server 2019 Essentials
- Windows Server 2016 Essentials
- Windows Server 2012 R2 Essentials
- Windows Server 2012 Essentials
- Windows Small Business Server 2011 Essentials

Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール

この章では、Windows Server 2011/2012/2012 R2/2016/2019 Essentials 用の Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール、アンインストール、アップグレードを行う手順について説明します。

トピック：

- [Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストールの前提条件](#)
- [Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール](#)
- [インストーラーの修復オプションの使用法](#)
- [Dell Command | Intel vPro Out of Band のアップグレード](#)
- [Dell Command | Intel vPro Out of Band のアンインストール](#)

Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストールの前提条件


このセクションでは、Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールするために必要な前提条件について説明します。

- Windows Server 2011/2012/2012 R2/2016/2019 Essentials をインストールします。Windows Server 2011 Essentials のインストール方法についての詳細は、Microsoft TechNet のサイト (technet.microsoft.com/library/home-client.aspx) を参照してください。Windows Server 2012/2012 R2 Essentials のインストール方法についての詳細は、Microsoft TechNet のサイト (technet.microsoft.com/library/jj200119.aspx) を参照してください。また Windows Server 2016 Essentials のインストール方法についての詳細は、Microsoft のサイト (<https://docs.microsoft.com/en-us/windows-server-essentials/get-started/get-started>) を参照してください。
- Intel Setup and Configuration Service (Intel SCS) 12.2 以降をダウンロードしてインストールします。
- .Net 4.5.2 Client Profile 以降をインストールします。

Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール

まず、Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールするシステムに管理者としてログインしていることを確認します。

1. dell.com/support/downloads にアクセスします。
2. Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストーラー ファイルをダウンロードします。
3. .exe ファイルを実行します。
Dell Command | Intel vPro Out of Band の ようこそ 画面が表示されます。
4. [次へ] をクリックします。
ライセンス契約 が表示されます。
5. ライセンス契約に同意する オプションを選択して、次へ をクリックします。
クライアントシステムのデータソースを選択 画面が表示されます。
6. クライアントシステムのデータソースを選択します。
 - Dell Command | Intel vPro Out of Band 構成済みクライアント
 - Dell KACE 構成済みクライアント
7. [次へ] をクリックします。
プログラムのインストール準備完了 画面が表示されます。
8. インストール をクリックします。
インストールプロセスが完了すると、インストールは正常に完了しました 画面が表示されます。
9. 終了 をクリックします。

 **メモ:** [**Windows インストーラーのログを表示する**] オプションを選択して、インストールのログを確認します。

インストーラーの修復オプションの使用方法

Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールするときに発生する可能性のあるインストールの問題を修復します。

1. [**コントロール パネル**] > [**プログラムと機能**] の順に開きます。
2. **Dell Command | Intel vPro Out of Band** を右クリックして、**修復** をクリックします。
3. DCIV_Setup_3_3_0.exe パッケージをダウンロードしたフォルダーで、パッケージを実行します。
Dell Command | Intel vPro Out of Band の ようこそ 画面が表示されます。
4. **次へ** をクリックします。
5. 次のウィンドウで **修復** を選択して、**次へ** をクリックします。
プログラム変更の準備完了 画面が表示されます。
6. **インストール** をクリックします。
インストールプロセスが完了すると、**インストールは正常に完了しました** 画面が表示されます。
7. **終了** をクリックします。
[**Windows インストーラーのログを表示する**] オプションを選択して、インストールのログを確認します。

Dell Command | Intel vPro Out of Band のアップグレード

Dell Command | Intel vPro Out of Band を旧バージョンから最新バージョンにアップグレードするには、最新の Dell Command | Intel vPro Out of Band インストーラーを実行します。詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール](#)」を参照してください。

Dell Command | Intel vPro Out of Band のアンインストール

Dell Command | Intel vPro Out of Band をアンインストールするには、次の方法のいずれかを使用します。

- Windows から行う場合 : [**コントロール パネル**] > [**プログラムと機能**] の順に開き、[**Dell Command | Intel vPro Out of Band**] を右クリックして [**アンインストール**] をクリックします。
- アプリケーションのアンインストーラーを使用する場合 : .exe ファイルをダブルクリックして [**削除**] を選択し、画面の指示に従ってアンインストールを完了します。

Dell Command | Intel vPro Out of Band の使用

この章では、Microsoft Windows Small Business Server (SBS) 2011/2012/2012 R2/2016 Essentials 用の Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール後に実行できるさまざまな操作について説明します。

トピック：

- ・ [Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)
- ・ [Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用する前に設定](#)
- ・ [USB プロビジョニング](#)
- ・ [クライアントの選択](#)
- ・ [インジケーション](#)
- ・ [クライアントの設定](#)
- ・ [操作](#)
- ・ [レポートの生成](#)
- ・ [タスク キュー](#)

Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動

Windows Server 2011 Essentials を実行しているシステムの場合、次の手順に従います。

スタート > すべてのプログラム > Dell > Dell Command | Intel vPro Out of Band の順にクリックします。

Windows Server 2012/2012 R2 Essentials を実行しているシステムの場合、次の手順に従います。

スタート画面を開いて、アプリケーションのリストから **Dell Command | Intel vPro Out of Band** をクリックします。

Windows Server 2016 Essentials を実行しているシステムの場合、次の手順に従います。


スタート メニューを開いて、アプリケーションのリストから **Dell Command | Intel vPro Out of Band** をクリックします。


Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用する前に

Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用してクライアントシステムをアウトオブバンドに管理する前に、次の手順を実行します。

- Intel SCS を使用して、クライアントシステムをプロビジョニングします。
- すべてのアクティブなファイアウォールを無効にします。
- WinRM を設定します。「[WinRM の設定](#)」を参照してください。
- USB デバイスを使用して、クライアントシステムをプロビジョニングします。「[USB デバイスを使用してプロビジョニング](#)」を参照してください。
- Dell Command | Intel vPro Out of Band にアカウントをセットアップし、クライアントシステムを管理します。「[アカウントのセットアップ](#)」を参照してください。
- ネットワーク上の Intel Active Management Technology (AMT) 対応クライアントシステムを検出します。「[クライアントの選択](#)」を参照してください。

WinRM の設定

 **メモ:** クライアントシステムのファイアウォールを、WinRM コマンドを受け入れるように設定します。

 **メモ:** 現在の WinRM 設定を取得するには、winrm get winrm/config コマンドを使用します。グループ ポリシー オブジェクト制御の設定を使用している場合、コマンドによってこの情報が表示されます。

クライアントシステムで、WinRm が設定されていない場合は、管理者のコマンドプロンプトに次のコマンドを入力します。

1. 「winrm quickconfig」と入力します。
2. 「Do you want to configure winrm?」というプロンプトが表示されたら、y を押します。
3. winrm set winrm/config/client @{AllowUnencrypted="false"}
4. winrm set winrm/config/client/auth @{Digest="true"}
5. winrm set winrm/config/client @{TrustedHosts="MANAGEMENT_SERVER_IP_ADDRESS"}
WinRM が設定されます。

設定

設定 ウィンドウでは、次のような、アプリケーションのさまざまなコンポーネントのプリファランスを設定できます。

- アカウントのセットアップ
- インジケーション
- KVM
- タスクキュー
- ロギング

アカウントのセットアップ

AMT 対応クライアントシステムを管理するアカウントを設定できます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
2. 設定アイコンをクリックします。
設定画面に、**アカウントのセットアップ** タブが表示されます。
3. 次を設定します。
 - **オペレーティングシステム** のアカウント情報。
 - **AMT Management Engine** のアカウント情報。

Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールして、KACE AMT システムを管理している場合は、次の設定を指定することもできます

- AMT でプロビジョニングされたクライアントのオペレーティングシステム資格情報
- AMT でプロビジョニングされたクライアントの AMT ME 資格情報
- インベントリの API の K1000 資格情報
- K1000 接続用のプロキシサーバ情報

4. **OK** をクリックします。

KACE アカウントのセットアップ


KACE 管理下ネットワークにインストールした Dell Command | Intel vPro Out of Band で、KACE アカウント設定を指定します。

 **メモ:** KACE アカウント設定を指定するオプションは、KACE 管理下ネットワークに Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールしない限り使用できません。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
2. **設定** アイコンをクリックします。
3. **KACE アカウントのセットアップ** タブをクリックします。
4. 次を設定します。
 - **KACE サーバー名** : KACE ソフトウェアがインストールされているサーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。
 - **KACE サーバーのユーザー名** : KACE サーバー管理者アカウントのユーザー名です。
 - **KACE サーバーのパスワード** : KACE サーバー管理者アカウントのパスワードです。
 - オプションで、**パスワードを表示** のチェックボックスを選択します。
5. **OK** をクリックします。


インジケーション

保持日数およびリスナー IP アドレスなどのインジケーション設定を設定します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. 設定アイコンをクリックします。
設定画面に、インジケーション タブが表示されます。
3. 次を設定します。
 - **保持日数** - クライアント イベントがデータベースに保存される日数であり、最小 7 日から最大 180 日の範囲です。イベントは、保持期間が経過すると削除されます。
 - **再試行日数** - インジケーション サービスがクライアント上の AMT サービスに接続を試みる日数。再試行日数のデフォルトおよび最大数は両方とも 3 日です。
 - **1 日あたりの再試行回数** - インジケーション サービスがクライアント上の AMT サービスに接続を試みる 1 日あたりの回数。1 日あたりの最大試行回数およびデフォルトは、いずれも 3 回です。
 - **リスナー IP アドレス** - 使用可能なローカル サーバーの IP アドレスから選択して、リスナー IP アドレスを指定します。デフォルトは、利用可能なローカルサーバ IP アドレスのリストの最初の IP アドレスです。
 **メモ:** アクティブなサブスクリプションを実行している場合は、リスナー IP アドレスまたはポート番号は変更できません。
 - **ポート番号** - リスナー IP アドレスのポート番号です。デフォルト値は 65000 です。
4. **OK** をクリックします。


すべてのサブスクリプションの解除

すべてのサブスクリプションの解除 ボタンを使用して、インジケーション操作がネットワークパフォーマンスに負の影響を及ぼしている場合や、輻輳を削減したい場合にすべてのクライアントからすべてのサブスクリプションを解除します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. 画面の右上の設定アイコンをクリックします。
設定画面に、インジケーション タブが表示されます。
3. すべてのサブスクリプションの解除 をクリックします。
 **メモ:** すべてのサブスクリプションを解除するには、サブスクリプションを実行しているクライアント数によっては、しばらく時間がかかる場合があります。

KVM

KVM およびユーザー同意セッションがタイムアウトする時間を指定するには、次の手順に従います。


1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
2. 設定アイコンをクリックします。
3. 設定画面で、**KVM** をクリックします。
KVM タブが表示されます。
4. ユーザー同意セッションがタイムアウトする時間を **ユーザー同意応答のタイムアウト** フィールドに指定します。
5. 操作が一定の時間行われなかった後に KVM セッションがタイムアウトする時間を **セッションのタイムアウト** フィールドに指定します。
 **メモ:** 値をゼロに設定すると、セッションのタイムアウトが無効になります。
6. **OK** をクリックします。

タスク キュー

タスクキュー ウィンドウに表示される完了タスク数を制限するための機能です。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。

詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。

2. ホーム画面で、設定アイコンをクリックします。
 3. 設定画面で、タスクキューをクリックします。
タスクキュータブが表示されます。
 4. 次を設定します。
 - **タスクキュー**：タスクキューを自動的に更新するには、スイッチを [オン] の位置にします。
 - **更新頻度**：タスクキューの更新頻度を 15~900 秒の範囲で設定します。
 - **履歴制限**：タスクキューデータベースに保存するタスクの数を 7~1095 の範囲で設定します。
-  **メモ**：新規タスクが作成されるとき、完了済み、キャンセル済みまたは中止されたタスクだけが削除されます。
5. **OK** をクリックします。

ログ

Dell Command | Intel vPro Out of Band によって取得するログレベル、およびログの場所を設定します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
2. ホーム画面で、設定アイコンをクリックします。
3. [設定] 画面で、[ログ] をクリックします。
[ログ] タブが表示されます。
4. [ログレベル] ドロップダウンメニューから次のいずれかのオプションを選択します。
 - **なし**：ログはキャプチャされません。
 - **標準**：正常に動作しているクライアントシステムの通常のログです。このログレベルが推奨設定です。
 - **デバッグ**：予期しない問題をトラブルシューティングするための詳細なログです。
5. **参照...** をクリックして、ログファイルが作成される場所を選択します。
6. 既存のログを表示するには、**フォルダの表示** をクリックします。
7. **OK** をクリックします。



USB プロビジョニング

Intel Active Management Technology ベースのクライアントシステムで帯域外を管理する前に、AMT 用のクライアントシステムをプロビジョニングします。

USB デバイスを使用したプロビジョニング

リモート設定により Intel Management and Security Status アプリケーションを導入するには、ネットワーク上のクライアントシステムは、まずデジタルプロビジョニング証明書を取得する必要があります。

USB ストレージデバイスを使用して、クライアントシステムに証明書のハッシュをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
USB プロビジョニング 画面が表示されます。
2. **現在のパスワード** セクションに Management Engine (ME) パスワードを入力し、AMT 用の **新しいパスワード** を入力して確認します。
 -  **メモ**：AMT のパスワードは、大文字、小文字、数字、英数字以外の記号 (: , _ , " を除く) で構成された 8 文字以上の文字列である必要があります。
 -  **メモ**：Management Engine (ME) に最初に **現在のパスワード** を入力する際のデフォルトパスワードは *admin* です。
3. [**USB キー**] の下にある [**参照**] をクリックして、USB ストレージデバイスの場所をポイントします。
4. USB ストレージデバイスのドライブのフォーマットを選択します。

5. 管理者がクライアントシステムのユーザー同意ポリシーを上書きできるようにする場合は、[ユーザー同意ポリシーのリモート設定を有効にする] オプションを選択します。
6. Hello パケットを直ちに送信する場合は、**OOB のプロビジョニング (有効化すると hello パケットが直ちに起動します)** オプションを選択します。
7. プロビジョニングされるシステムを記録するため、**消耗品レコード** オプションを選択します。
8. 証明書ファイルを作成するために使用した **ハッシュアルゴリズム** の種類を選択します。
9. AMT プロビジョニング用にクライアントシステムに適用する **証明書ファイル** を参照して選択します。
10. 証明書ファイルの名前を入力します。
11. **キーの作成** をクリックします。
USB プロビジョニングキーが作成されます。

クライアントの選択

ネットワーク上のプロビジョニングされた Dell クライアントシステムを検出する機能です。

- ① **メモ:** Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールして Dell KACE AMT アセットを管理している場合、Dell KACE ソフトウェアが検出操作を管理しているため、検出機能は使用できません。
 - ① **メモ:** Windows ファイアウォールは、Dell Command | Intel vPro Out of Band によるクライアントシステムの検出をブロックする可能性があります。検出タスクを実行する前に、ファイアウォールが無効にされていることを確認してください。
1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
 2. **クライアントの選択** をクリックします。
 3. [**検出方法**] でクライアントシステムの検出方法を選択します。
 - **DNS** : Dell Command | Intel vPro Out of Band を実行中のドメインと同じドメインでクライアントシステムを検索します。
 - **IP 範囲** : Dell クライアントシステムを検索する IP の範囲を指定します。
 4. [**検出されたクライアント**] リストから管理するクライアントシステムを選択して、▶ ボタンをクリックすると、選択したシステムが [**選択済みクライアント**] リストに移動します。▶▶ ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動します。
 5. 次のオプションのいずれかを選択して、データベースでクライアントシステムの一覧を変更します。
 - **新しいクライアントシステムのみ追加** : 選択されたクライアントシステムのリストから、以前に検出されなかったクライアントシステムを追加します。
 - **クライアントシステムを追加または更新** : すべての選択されたクライアントシステムを追加および更新します。
 - **選択されたクライアントシステムをクリア** : 検出されたクライアントシステムのリストから選択したクライアントシステムを消去します。
 6. **終了** をクリックします。
 - ① **メモ:** クライアントシステムが DCIV データベースに追加されるのを待ち、オペレーティングシステムやサーバスタグのようなクライアント別のデータにマウスを移動して表示します。

インジケーション

Dell Command | Intel vPro Out Of Band アプリケーションでは、各クライアントを監視するために、Distributed Management Task Force (DMTF) フィルタ (インジケーション) を使用して、クライアントをリモートで監視、診断、および管理することが可能なインジケーション機能を提供します。

- ① **メモ:** DMTF フィルタの詳細については、DMTF の Web サイト (www.dmtf.org) を参照してください。

インジケーションでは、次のような診断イベントを監視できます。

- マザーボードエラー
- CPU 障害
- 電源装置障害です
- メモリサブシステムの障害

インジケーション機能には、次の機能があります。

- 設定：機能の設定データを設定します
- ポリシー：フィルターを1つ以上のクライアントに適用可能なポリシーに関連付けます
- サブスクリプションの設定：ポリシーをネットワーク上のクライアントに関連付け、そのポリシーをクライアントに適用します
- サブスクリプションのステータス：サブスクリプションを表示して管理します
- イベント：イベントを表示、管理、エクスポートします

推奨フィルターとオプションフィルター

一部のインジケーションは、メッセージ多用向けです。クライアントに適用される場合は、これらのフィルタで、大量のメッセージが生成される可能性があるため、十分注意して使用する必要があります。ネットワークの輻輳を避けるために、一度にネットワーク上の単一クライアントに1つのオプションのフィルタのみを適用することができます。サポートされているフィルタ：

推奨フィルタ

- Intel® AMT : CorePlatform

オプションフィルタ

△ 注意: 以下のオプションフィルタは、ネットワークパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があるため、十分に注意して使用してください。これらのフィルタの最適な使用方法として、単一のオプションフィルターを短期間、特定のクライアントに適用することで問題の診断を行う、などがあります。

- なし：デフォルト
- Intel® AMT : Platform
- Intel® AMT : ME Presence
- Intel® AMT : Features
- Intel® AMT : User
- Intel® AMT : FW ProgressEvents
- Intel® AMT : All

ポリシー

ポリシー画面では、以前に作成したインジケーションポリシーを表示したり、次のタスクを実行したりすることができます。

- 新規ポリシーの作成
- ポリシーの編集
- ポリシーの削除

テーブルの関連する列タイトルをクリックして、任意のフィールドを昇順または降順で並べ替えることができます。

ポリシーの作成

1. インジケーション > ポリシーをクリックします。
2. **新規** をクリックします。
ポリシーの作成画面が開きます。
3. 新しいポリシー名を入力します。この名前は、既存のポリシー名と同じにしてはならず、英数文字とスペースのみを含めることができ、最大 64 文字です。
4. ポリシーに含めるフィルタを選択します。新しいポリシーを作成するために少なくとも1つのフィルターを選択したことを確認してください。CorePlatform (推奨) フィルターとオプションフィルターの1つで構成される2つのフィルターを超えないようにする必要があります。どのフィルターを使用するかの詳細については、「[推奨およびオプションフィルター](#)」を参照してください。


i **メモ:** 与えられたポリシーに含めるために選択できるオプションフィルタは1つだけです。

5. **OK** をクリックします。
新しいポリシーが、ポリシーテーブルに表示されます。

i **メモ:** ポリシーは、1つまたは複数のサブスクリプションに含まれると、「アクティブ」と見なされます。


ポリシーの編集


1. 左側のペインで、インジケーション > ポリシー をクリックします。
2. 編集するポリシーを選択します。

 **メモ:** 非アクティブのポリシーだけを編集できます。


編集ボタンがアクティブになります。

3. **編集** ボタンをクリックします。
ポリシーの編集画面が開きます。
4. ポリシーに必要な変更を加えます。

 **メモ:** ポリシーを保存する前に、フィルタを少なくとも1つ選択する必要があります。


 **注意:** オプションフィルタは、ネットワークのパフォーマンスに影響を与える可能性があるために、十分に注意して使用してください。これらのフィルターの最適な使用方法として、単一のオプションフィルターを短期間、特定のクライアントに適用することで問題の診断を行う、などがあります。

5. **OK** をクリックします。

 **メモ:** サブスクリプションに含まれるまで、ポリシーはアクティブではありません。

ポリシーの削除

1. 左側のペインで、インジケーション > ポリシー をクリックします。
2. 削除するポリシーを選択します。

 **メモ:** 非アクティブのポリシーのみを削除することができます。

削除ボタンがアクティブになります。

3. **削除** ボタンをクリックします。

サブスクリプションの設定

サブスクリプションは、ネットワーク上のクライアントから1つ、または複数のクライアントが選択された1つのポリシーのコレクションです。[サブスクリプションの設定]画面から、以前に作成したサブスクリプションを表示したり、次の操作を実行したりすることができます。

- 新規サブスクリプションの作成
- サブスクリプションの編集
- サブスクリプションの削除
- サブスクリプションの実行 (選択したクライアントにサブスクリプションを適用)
- サブスクリプションの解除 (クライアントからサブスクリプションを削除)

各サブスクリプション行は以下のさまざまな状態のいずれかです。

- 保留中
- 実行中
- 停止中
- 完了
- エラーで終了
- 停止

昇順または降順で任意のフィールド別にサブスクリプションテーブルを並べ替えるには、関連する列タイトルをクリックします。サブスクリプションテーブルの列:

- サブスクリプション名
- 操作
- 修飾子 - 操作を変更します。Currently Stop は唯一の修飾子です。

- ステータス - サブスクリプションのステータスです。単一のクライアントが保留中または再試行状態のままの場合、サブスクリプションのステータスは「エラーで終了しました」となります。
- ポリシー名
- ポリシーフィルタ
- クライアント - 1つのクライアントがサブスクリプションに含まれている場合は、その完全修飾ドメイン名 (FQDN) がテーブルにリストされます。サブスクリプションに含まれるクライアント FQDN が 2 つ以上あるときにリストを表示するには、列の [複数...] ハイパーリンクをクリックします。

サブスクリプションテーブルを更新するには、更新 ボタンをクリックします。

サブスクリプションの作成

メモ: サブスクリプションを作成する前に、少なくとも1つのポリシーを作成し、クライアントを利用可能にする必要があります。

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックしてから、新規 ボタンをクリックします。サブスクリプションの作成画面が表示されます。
2. サブスクリプションの名前を入力します。この名前は一意で、英数文字とスペースのみを含み、最大 64 文字とする必要があります。
3. サブスクリプションに含めるポリシーを選択します。
4. [次へ] をクリックします。クライアントの選択画面が表示されます。
5. オプションで、クライアントの検索 フィルタを使用して、使用可能なクライアントのリストを制限します。

メモ: このサブスクリプションのために選択したポリシーに推奨ポリシーだけが含まれる場合は、このサブスクリプションを適用する使用可能なクライアントのリストから複数のクライアントを選択できます。ただし、このサブスクリプションのために選択したポリシーにオプションフィルタの1つが含まれる場合、選択できるクライアントは1つだけです。

6. 左側のリストから1つ、または複数の適切なクライアントを選択してから、それらを右側に移動します。
7. 終了 をクリックします。

サブスクリプションの編集

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。

メモ: アクティブなサブスクリプションを編集することはできません。

2. 編集するサブスクリプションを選択します。
3. 編集 ボタンをクリックします。サブスクリプションの編集画面が表示されます。
4. サブスクリプションの編集画面で必要な変更を行い、次へ をクリックします。
5. 選択したクライアントの編集画面で必要な変更を行い、終了 をクリックします。

サブスクリプションの削除

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。

メモ: アクティブなサブスクリプションを削除することはできません。

2. 削除するサブスクリプションを選択します。
3. 削除 ボタンをクリックします。

サブスクリプションの適用

① **メモ:** リスナーの IP アドレス設定が設定されていない場合は、新しいサブスクリプションを適用することはできません。設定 > インジケーション をクリックし、リスナーの IP アドレスを設定します。

① **メモ:** 既存のアクティブなサブスクリプションと同じ 1 つ、または複数のフィルタまたは 1 つ、または複数のクライアントを含む新しいサブスクリプションを適用することはできません。

① **メモ:** メッセージ多用向けフィルターのいずれかを含む別のサブスクリプションがアクティブな場合に、オプション フィルターのいずれかを含むサブスクリプションを適用することはできません。

① **メモ:** すべてのタスクのサブスクリプションを解除タスクが進行中の場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。

① **メモ:** インジケーション サービス (DellAweSvc) が実行中でない場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。サービスコンソールでサービスのステータスを確認します。

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。
2. 適用するサブスクリプションを選択します。
3. サブスクリプションの実行 をクリックします。

サブスクリプションの解除

① **メモ:** すべてのタスクのサブスクリプションを解除タスクが進行中の場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。

① **メモ:** インジケーション サービス (DellAweSvc) が実行中でない場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。サービスコンソールでサービスのステータスを確認します。

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。
2. 解除するサブスクリプションを選択します。
3. サブスクリプションの解除 をクリックします。

サブスクリプションのステータス

サブスクリプションのステータス画面で、サブスクリプションのステータスを表示できます。作成した各サブスクリプションについて、およびサブスクリプションのポリシーに含まれる各フィルタについて、サブスクリプションが適用される各クライアントは、個別の行に表示されます (フィルターの数 × クライアントの数 = サブスクリプションごとのテーブル項目数)。各サブスクリプションまたはクライアントの行の状態は、次のいずれかになります。

- 準備完了
- 再試行の保留中
- 処理中
- 成功
- 失敗
- 停止

そのフィールドのいずれかによりサブスクリプションを昇順または降順にソートするには、適切な列タイトルをクリックします。テーブルのカラムは、次のいずれかです。

- サブスクリプション名
- 操作
- 修飾子
- ステータス
- クライアント
- ポリシーのフィルタ

サブスクリプションステータステーブルを更新するには、更新ボタンをクリックします。

サブスクリプションの停止

1つ以上のサブスクリプションの行が準備完了、処理中、または再試行保留中である場合は、サブスクリプションを停止することができます。サブスクリプションを停止しても、成功または失敗の状態であるサブスクリプションの行には影響しません。サブスクリプションを停止したら、サブスクリプションの**設定**画面に戻り、サブスクリプションを編集、削除、適用、または解除することができます。

メモ: 1つのクライアントでサブスクリプションを停止すると、その停止がそのサブスクリプションが適用されていたすべてのクライアントに適用されます。

1. **インジケーション > サブスクリプションのステータス** をクリックします。
2. 停止するサブスクリプションを選択します。
3. **サブスクリプションの停止** をクリックします。

イベント

イベント画面には、サブスクリプションの適用後に返されるインジケーションのリストが表示されます。この画面では、イベントのリストの表示のみが可能ですが、リストを*.csv ファイルにエクスポートすることもできます。あるタイプのイベントを追跡する必要がなくなった場合、そのイベントのメッセージ ID をブラックリストに追加することができます。そうすると、引き続きイベントが発生しても、ブラックリストから削除するまでそのイベントは保存されなくなります。

イベントリストは、日付列でのみソート可能です。イベントリストで提供されるその他の情報は、以下のとおりです。

- **クライアント:** イベントを生成したクライアントシステム。
- **メッセージ ID:** イベントのタイプ。多くのイベントが同じメッセージ ID を共有する場合があります。
- **説明:** イベントの簡単な説明です。
- **重大度:** 起こりうるイベントの重大度レベルには、不明、その他、情報、警告、軽微、重度、危機的、致命的があります。
- **アラート タイプ:** 起こりうるアラートのタイプには、その他、通信、サービス品質、処理エラー、デバイス、環境、モデル変更、セキュリティがあります。

イベントカウンタは、画面の右上部分に表示されます。更新ボタンをクリックすると、イベントカウンタが更新され、イベントリストが更新されます。

メモ: イベントカウンタは、イベントリストの中の表示されるイベントの数ではなく、保存されているすべてのイベントの数を示します。

イベントの表示

イベントリストを表示するには、以下の手順を実行します。

1. 左側のペインで、**インジケーション > イベント** をクリックします。
2. オプションで、フィルタを使用してイベントリストに表示されるイベントを制限します。

メモ: イベントカウンタは、イベントリストの中の表示されるイベントの数ではなく、保存されているすべてのイベントの数を示します。

- a. **フィルタ設定** をクリックします。
イベントフィルタの設定画面が表示されます。
- b. フィルタ方式を、なし、クライアント、メッセージ ID、クライアント、またはメッセージ ID から選択します。
- c. **次へ** をクリックし、選択したフィルタオプションにより、**クライアント** および/または **メッセージ ID** を選択します。
- d. **終了** をクリックします。
イベントリストを更新します。

ブラックリストへのイベントの追加

イベントの特定のタイプ (メッセージ ID) をイベントリストから表示されないようにするには、これらのタイプを次のようにブラックリストに追加します。

1. 左側のペインで、**インジケーション > イベント** をクリックします。
2. メッセージ ID を選択し、適切なボックスにチェックマークを付けて、ブラックリストに追加します。
3. **ブラックリストに追加** をクリックします。
選択したイベントのメッセージ ID がブラックリストに追加されます。

① **メモ:** メッセージ ID がブラックリストに追加されたら、同じメッセージ ID を持つ以前のイベントはイベントリストに残ります。そのメッセージ ID を持つ新しいイベントのみが破棄されます。

① **メモ:** すべてのイベントをブラックリストに追加すると、すべての、またはほぼすべての新しいイベントが破棄されます。

ブラックリストからのイベントの削除

ブラックリストからメッセージ ID を削除して、それらのタイプのイベントが破棄されないようにするには、次の作業を行います。

1. 左側のペインで、**インジケーション > イベント** をクリックします。
2. **ブラックリストの管理** をクリックします。
イベントのブラックリスト画面が表示されます。ブラックリストに登録されたイベントは、メッセージ ID または説明フィールドによりソートできます。
3. メッセージ ID を選択して、適切なボックスにチェックマークを付けて、ブラックリストから削除します。
4. **ブラックリストから削除** をクリックしてから **閉じる** をクリックします。
削除されたメッセージ ID を含む新しいイベントが破棄されなくなり、イベントリストに表示されます

イベントのエクスポート

イベントのリストを *.csv ファイルにエクスポートするには

1. 左側のペインで、**インジケーション > イベント** をクリックします。
2. 適切なボックスにチェックマークを付けて、エクスポートするイベントを選択します。
3. [**エクスポート...**] をクリックします。
4. イベント リスト ファイルを保存する場所に移動して、[**保存**] をクリックします。
選択したイベントが *.csv ファイルに保存されます。

クライアントの設定

ターゲットクライアントシステム上の電源プロファイル、起動順序、BIOS 設定、および BIOS パスワードを設定できます。

電源プロファイルの設定

Dell Command | Intel vPro Out of Band により管理されるクライアントシステム上の多様な電源プロファイルを定義します。クライアント システムのさまざまな電源状態 (S0 ~ S5) で、電源消失後の Wakeup On Lan (WOL)、ON、OFF などの機能を制御できます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
2. **クライアントの設定 > 電源プロファイル** をクリックします。
3. デスクトップあるいはモバイル システムの電源ポリシーを選択します。[**次へ**] をクリックします。
クライアントの選択 タブが表示されます。
4. 電源パッケージを適用するクライアントシステムを検索します。
5. [**検出されたクライアント**] リストから管理するクライアントシステムを選択し、▶ ボタンをクリックすると、選択したシステムが [**選択済みクライアント**] リストに移動します。▶▶ ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動します。
6. [**次へ**] をクリックします。
タスクのスケジュール タブが表示されます。
7. 変更を直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行**：電力プロファイルの変更は直ちに適用されます。
 - **実行待ち**：電力プロファイルの変更は [**タスク キュー**] で待ち状態になります。

① **メモ:** タスクキューを起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。

i **メモ:** クライアント システムがネットワークに接続されていない場合は、クライアント システムがオンラインに戻ったあとでタスクを再度実行してください。

8. 実行中のタスクに名前を付けて、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
9. **終了** をクリックします。
[タスク キュー] ウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて、直ちに実行が開始されるかキューイングされます。

起動順序の設定

対象のクライアントシステム上の起動順序を変更または設定します。レガシー起動デバイスが搭載されたクライアントシステムでは、起動順序機能により、永続的にまたは一回だけブート シーケンスの変更を行うことができます。

i **メモ:** この **起動順序** 機能は、**UEFI** 起動モードではサポートされていません。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
2. クライアントの設定 > **起動順序** をクリックします。
3. テーブルに可能なすべての起動デバイスがリストされます。起動順序を以下により変更します。
 - テーブルの下部にある**上向き**または**下向き**の矢印をクリックして、起動デバイスの順序を上または下に移動します。
 - 起動デバイスの横にある**チェック ボックス**をオンまたはオフにして起動デバイスを無効にします。
4. 次の設定オプションのいずれかを選択します。
 - **1回限りの起動設定**：起動順序を1回限りの再起動サイクル用に変更する場合。
i **メモ:** このオプションが選択されていない場合、起動順序が永久的に変更されます。
 - **エラー時に続行**：エラーの発生時にタスクの実行を後続のクライアントシステムに引き継ぐ場合は、[**エラー時に続行**] オプションを選択します。それ以外の場合、エラーが発生した最初のクライアントシステムで、タスク実行は停止します。
 - **変更を適用後にクライアントを再起動する**：変更の適用後、クライアントシステムを再起動する場合。
5. [**次へ**] をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
6. 起動順序の変更を適用するクライアントシステムを検索します。
7. [**検出されたクライアント**] リストから管理するクライアントシステムを選択して、**>** ボタンをクリックすると、選択したシステムが [**選択済みクライアント**] リストに移動します。**>>** ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動します。
8. [**次へ**] をクリックします。
タスクの**スケジュール** タブが表示されます。
9. 変更を直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行**：起動順序の変更は直ちに適用され、[**タスク キュー**] には [**実行中**] というステータスが表示されます。
 - **実行待ち**：起動順序の変更は [**タスク キュー**] で待ち状態になります。
i **メモ:** **タスク キュー** を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
- i** **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
10. 実行するタスクに名前を指定して、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
11. **終了** をクリックします。
[タスク キュー] ウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて、直ちに実行が開始されるかキューイングされます。

BIOS の設定

この機能では、1つまたは複数のクライアントシステム上に BIOS をリモートで設定、変更、およびリセットすることができます。BIOS 設定テーブルに表示される設定は、現在の BIOS 設定名です。レガシーシステムでは、別の BIOS 設定名が使用される場合があります。ただし、BIOS 設定テーブルで更新後の設定名を使ってアクセスすることは可能です。斜体になっている BIOS 設定名は、レガシーシステムでのみ使用できる BIOS 設定です。

i **メモ:** サポートされている BIOS 設定オプションは、各クライアントシステムごとに異なります。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
 2. クライアントの**設定** > **BIOS 設定** をクリックします。
 3. クライアントシステムの BIOS 設定に変更を加えます。
 4. オプションで、タスク処理のオプションを選択できます。
 - **処理を続行する。エラー時に停止しない**：アプリケーションは、次に選択した BIOS 設定を現在および後続のクライアントに適用し続けます。
 - **次のクライアントに続行するが、エラー時にこのクライアントの処理を停止する**：アプリケーションは、エラーが発生したクライアントに BIOS 設定を適用せず、その他の選択したクライアントに移動します。
 - **変更適用後にクライアントを再起動**
 5. [次へ] をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
 6. BIOS 設定を適用するクライアントシステムを検索します。
 7. [使用可能なクライアント] リストから管理するクライアントシステムを選択し、▶ ボタンをクリックすると、選択したシステムが [選択済みクライアント] リストに移動します。▶▶ ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動します。
 8. [次へ] をクリックします。
タスクの**スケジュール** タブが表示されます。
 9. 変更をすぐに適用するか、スケジュールしておいて後で適用するかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行**：BIOS 設定は直ちに適用され、[タスク キュー] には [実行中] というステータスが表示されます。
 - **実行待ち**：BIOS 設定は [タスク キュー] で待ち状態になります。
- i** **メモ:** タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
- i** **メモ:** Dell クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
10. BIOS 属性変更の簡単な説明を入力して、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
 11. **終了** をクリックします。
[タスク キュー] ウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて、タスクの実行が直ちに開始されるか、キューイングされて後で実行されます。

BIOS パスワードの設定

BIOS のパスワードを管理できます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
2. [クライアントの設定] > [パスワード] の順にクリックします。
[パスワード] タブが表示されます。
3. 次のいずれかのオプションを選択します：
 - **クリア**：管理パスワードまたはシステム パスワードをクリアします。
i **メモ:** システム パスワードをクリアしてから、管理パスワードをクリアすることをお勧めします。
 - **セット**：管理パスワードまたはシステム パスワードを入力して確定します。
i **メモ:** 管理パスワードまたはシステム パスワードをセットしたら、クライアントシステムを再起動する必要があります。
 - **設定**：強力なパスワード機能を有効または無効にしたり、さまざまなパスワードルールをカスタマイズできます。
4. エラーが発生した際に、タスク実行を後続のクライアントシステムに引き継ぐ場合は、**エラー時に続行** オプションを選択します。それ以外の場合、エラーが発生した最初のクライアントシステムで、タスク実行は停止します。
5. 変更を適用した後で再起動する場合は、**変更を適用後に再起動する** オプションを選択します。
6. [次へ] をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。

7. 起動順序の変更を適用するクライアントシステムを検索します。
8. [使用可能なクライアント] リストから管理するクライアントシステムを選択し、▶ボタンをクリックすると、選択したシステムが[選択済みクライアント] リストに移動します。▶▶ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動します。
9. [次へ] をクリックします。
タスクのスケジュール タブが表示されます。
10. パスワードの変更を直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするかのいずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** : BIOS パスワード設定は直ちに適用され、[タスク キュー] には [実行中] というステータスが表示されます。
 - ① **メモ**: Dell クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - **実行待ち** : BIOS パスワード設定は [タスク キュー] で待ち状態になります。
 - ① **メモ**: タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
11. 適用する変更についての短い説明を入力して、次へ をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
12. 終了 をクリックします。
[タスク キュー] ウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて、直ちに実行が開始されるかキューイングされます。

操作

この機能により、KVM セッションの設定、電源のオフ/オフ、Dell クライアントシステムの再起動、および Dell クライアントシステムのハードドライブのリモートワイプができます。

KVM セッションの確立

この機能により、Intel グラフィックスカードが搭載されたクライアントシステムのプライマリまたはセカンダリ (ある場合) のモニターをリモートで表示できます。詳細に関しては、dell.com/support/manuals にあるクライアントシステムのマニュアルを参照してください。

- ① **メモ**: リモート KVM セッションを確立する前に、Intel Management Engine BIOS Extension (MEBx) インタフェースを介して KVM を有効にします。
- ① **メモ**: 操作が一定の時間行われず、KVM セッションがタイムアウトした場合は、再度セッションを確立してください。タイムアウト期間を指定するには、「KVM」を参照してください。KVM、p. 11

リモートクライアントシステムと KVM セッションを確立するには、次の手順に従います。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
2. **操作 > KVM 接続** をクリックします。
KVM 接続 タブが表示されます。
3. KVM セッションを確立するクライアントシステムのリストを検索します。
4. KVM セッションを開始するクライアントシステムを選択し、**接続** をクリックします。

電源管理の実行

この機能を使用すると、AMT 操作によって有効な Windows オペレーティングシステムから、クライアントシステムを正常にシャットダウンまたは再起動することができます。

- ① **メモ**: Dell Command | Intel vPro Out of Band による正常な電源リクエストは、Windows ファイアウォールによってブロックされます。
1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
 2. **操作 > 電源管理** をクリックします。
電源管理 タブが表示されます。
 3. クライアントシステムで実行する電源制御オプションを、ドロップダウン リストから選択します。
 4. [次へ] をクリックします。

クライアントの**選択** タブが表示されます。

- 電源管理の変更を適用するクライアントシステムを探します。
- [**検出されたクライアント**] リストから**管理するクライアントシステム**を選択して、>ボタンをクリックすると、選択したシステムが [**選択済みクライアント**] リストに移動します。>>ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動します。
- [**次へ**] をクリックします。
タスクの**スケジュール** タブが表示されます。
- タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 今すぐ実行**：電源管理の変更は直ちに適用され、[**タスク キュー**] には [**実行中**] というステータスが表示されます。
 - メモ**：Dell クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - 実行待ち**：電源管理の変更は、[**タスクキュー**] で待ち状態になります。
 - メモ**：タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
- 適用する変更についての短い説明を入力して、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
- 終了** をクリックします。

クライアント データの消去

注意：この操作は、クライアントシステム上のすべてのデータを削除します。

メモ：クライアントのハードドライブのリモート消去では、完了するまでにしばらく時間がかかる場合があります。

クライアント データの消去機能では、サポート対象のクライアント システムのハード ドライブのデータをリモートから削除できます。

- Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
- 操作 > クライアントデータの消去** をクリックします。
- クライアントデータの消去** を選択した後で、次のアクションのいずれか実行できます。
 - スケジュール**：クライアント システムのハード ディスクを消去する時刻をスケジュール設定します。詳細については、「[クライアントデータ消去のスケジュール設定](#)」を参照してください。
 - メモ**：クライアントデータのリモート消去操作をスケジュールするには、クライアントにネットワークからアクセスできる必要があります。
 - 取得**：クライアント システムのハード ディスクの消去のステータスを取得します。詳細については、「[クライアントデータ消去ステータスの取得](#)」を参照してください。

クライアント データ消去のスケジュール設定

クライアント データ消去機能を使用すると、サポート対象のクライアント システムのハード ドライブ上のデータをリモートで削除できます。クライアントデータ消去のスケジュールを設定するには、以下の作業を行います。

- スケジュール** を選択して **次へ** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
- リモートデータ消去をスケジュールするクライアントシステムを検索します。
- [**使用可能なクライアント**] リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、>ボタンをクリックして、選択したシステムを移動します。または>>ボタンを押して、検出されたすべての Dell クライアントを [**選択済みクライアント**] リストに移動します。
- [**次へ**] をクリックします。
- タスクのスケジュール** タブが表示されます。
- タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 今すぐ実行** - クライアント データ消去操作がすぐに適用され、タスク キュー内の実行ステータスが表示されます。

i **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。

- 実行待ち - クライアント データ消去操作をタスク キューに入れます。

i **メモ:** タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。

7. 適用しているタスクの手短な説明を入力して、**次へ** をクリックします。

i **メモ:** [**消去後のクライアント データの取得**] タスクを実行して、クライアント システムのハード ドライブが正常にフォーマットされたことを確認することをお勧めします。詳細については、[消去後のクライアントデータの取得](#) を参照してください。

8. **終了** をクリックします。

クライアント データ消去ステータスの取得

i **メモ:** **取得** を使用すると、クライアントデータ消去操作のステータスを要求します。

i **メモ:** リモートハードドライブ消去コマンドをサーバからクライアントシステムに発行したあと、タスクのステータスは **完了** に変化します。クライアントシステムのフォーマット処理は、このステータスが **完了** に変化したあとでのみ開始します。

ステータスを取得するには、次の作業を行います。

1. **取得** を選択し、**次へ** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. クライアントデータ消去のステータスを取得するクライアントシステムを選択します。
3. [**利用可能なクライアント**] リストから、**管理するクライアント システム**を選択し、**>** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**>>** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを [**選択したクライアント**] リストに移動します。
4. [**次へ**] をクリックします。
5. **タスクのスケジュール** タブが表示されます。
6. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - クライアント データ消去操作のステータスがすぐに取得され、タスク キューに実行中ステータスが表示されます。
i **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - **実行待ち** - ステータスは、タスク キューの中で待機中です。
i **メモ:** タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
7. 適用する変更についての短い説明を入力して、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
8. **終了** をクリックします。

レポートの生成

この機能により、アウトオブバンド管理機能、プロビジョニング、ラップトップクライアント システムのバッテリーの状態に関する詳細レポート、ならびに単一または複数のクライアント システムのハードウェア インベントリー レポートを生成および表示できます。これらのレポートはスプレッドシートとしてエクスポートできます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動](#)」を参照してください。
2. ホーム 画面で、**レポート** をクリックします。
3. ようこそ 画面では、次のレポートを生成できます。
 - **アウトオブバンド管理機能** : クライアント システムの AMT Management Engine の設定を表示できます。
 - **プロビジョニング** : ネットワーク内のすべてのクライアント システムのプロビジョニング ステータスを表示します。
 - **バッテリーの状態** : ネットワーク上のすべての AMT 対応クライアント システムのバッテリーの状態を表示します。
 - **ハードウェア インベントリー** : ネットワーク上のすべてのクライアント システムのインベントリー情報を収集します。
4. 必要なレポートの種類を選択したあとで、以下のアクションのいずれかを実行できます。

- スケジュール：詳細については「[レポートのスケジュール](#)」を参照してください。
- 取得：詳細については「[レポートの取得](#)」を参照してください。

レポートのスケジュール

ネットワーク上で選択されたクライアントシステムのレポートを生成します。レポートをスケジュールするには、次の手順を実行します。

1. **スケジュール** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. レポートを表示したいクライアントシステムのリストを検索します。
3. [**使用可能なクライアント**] リストから、管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックして、選択したシステムを移動します。または**>>** ボタンを押して、検出されたすべての Dell クライアントを [**選択済みクライアント**] リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。
タスクのスケジュール タブが表示されます。
5. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - レポートのスケジュール タスクは直ちに適用され、タスク キューに実行中ステータスが表示されます。
i **メモ**: お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - **実行待ち** - レポートのスケジュール タスクがタスク キューで待ち状態になります。
i **メモ**: タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
6. タスクの名前を入力して **次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
7. **終了** をクリックします。
[タスク キュー] ウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

レポートの取得

i **メモ**: レポートの取得では、スケジュールされたレポートを介して収集されたデータのレポートを要求します。

既存のレポートを表示します。レポートを取得するには、次の手順を実行します。

1. **取得** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. レポートを表示したいクライアントシステムのリストを検索します。
3. [**使用可能なクライアント**] リストから、管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックして、選択したシステムを移動します。または**>>** ボタンを押して、検出されたすべての Dell クライアントを [**選択済みクライアント**] リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。
5. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - レポートの取得タスクは直ちに適用され、タスク キューに実行中ステータスが表示されます。
i **メモ**: お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - **実行待ち** - レポートの取得タスクがタスク キューで待ち状態になります。
i **メモ**: タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
6. タスクの名前を入力して **次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
7. **終了** をクリックします。
[タスク キュー] ウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

タスク キュー

タスクキュー ウィンドウでは、スケジュール済みのタスクと完了したタスクを確認することができます。以下をクリックすることもできます。

- **更新**：タスク キューを更新します。
- **表示**：タスク キュー内の個々のタスクに関する詳細情報を表示します。情報を Excel ファイルにエクスポートするには、[**エクスポート**] をクリックします。
- **再実行**：タスクが正常に実行されたクライアント システムはスキップして、クライアント システムで失敗した既存のタスクを再実行します。タスクがエラーなしで完了した場合は、**再実行** をクリックすると、タスク内のすべてのクライアントシステムが再起動されます。
- **取得**：レポート タスクの取得オプション (スケジュールではなく) を実行します。
- **編集**：保留中 (実行を待機中) のタスクを編集します。編集が進行中の際、タスクは**保留状態**に置かれます。
- **複製**：すべての保留中、完了済み、キャンセル済みのタスクを複製します。
- **キャンセル**：まだ**完了**していないタスクをキャンセルします。